第3回人権賞 受賞者 シャプラニール=市民による海外協力の会

【受賞理由】

設立以来、多くの国民が生きることさえ危機的状況にあるバングラディッシュにおいて、貧困層の人々を対象にその社会的、経済的地位向上のための救済活動に対して。

Q 1 どのようなきっかけから「受賞テーマ」に取り組むようになりましたか。

1972年春、独立直後のバングラディッシュを農業から復興していこうと50数名の青年が派遣された。しかし、彼らが現場で感じたものは、援助によって潤うのは豊かな人たちであり、貧しい者にとっては無縁のものであるという矛盾に満ちた援助の姿だった。そこで「バングラディッシュの人々にとって本当に役立つ援助とは何か？」を真剣に考え、農民による相互扶助グループ運営支援をはじめ生活向上を目指す支援を行うようにした。

Q 2 その活動には、どのようなご苦労がありましたか。

日本人との価値観や生活様式の違いはもちろん、外から入ることの難しさは熱意だけではどうにもならない。海外協力の活動は、ともすれば日本人本位の活動になってしまう危険性をはらんでいる。

村人自身の、生活向上に向けた主体的参加を促すことの重要性を、様々な形で失敗を通して学んできた。

Q 3 人権賞を受賞してどのような変化がありましたか。

貧困の問題が人権問題につながっているということ、広く伝えるきっかけになった。

Q 4 「受賞テーマ」はどのように発展・継承され、現在はどのような活動状況となっていますか。

収入向上プログラム用ローンの導入、農村保険ボランティアの育成のほか、新たにネパールでの活動を開始し、ストリートチルドレンへの支援等その時期に応じたテーマを調査し、支援してきている。また、彼らのことを多くの日本の方々にも知ってもらい、相互理解を深めるため、日本全国で講演会や各種セミナー、中高生を対象としたユース・フォーラム等の様々な活動を行っている。

Q 5 あなたにとって、いま最も関心のある「テーマ」は何ですか。

我々の社会に生じている諸問題の深刻さや、これら問題が国境を越えて影響を及ぼしあっている点を考えると、「途上国援助」という枠組みを超えて、お互いの社会が抱える諸問題の解決に向けた相互交流を促進していきたい。

また、それを通じて我々自身の社会のあり方を地球規模でより持続可能、かつより平等なものとすることに真剣に取り組む必要があると考える。

Q 6 新たにはぐくむべき「人権」のテーマなど、今後の抱負や活動目標とともに
お聞かせください。

今後の活動目標としては、「南」と「北」の住民がお互いに協力しあいながら、南北問題の解決に向けて共に取り組むプロセスを重視したい。誰もが問題の当事者としての意識を持ち、行動するよう働きかけていくことが、21世紀のシャプラニールがめざす「市民による海外協力」であると考えている。